

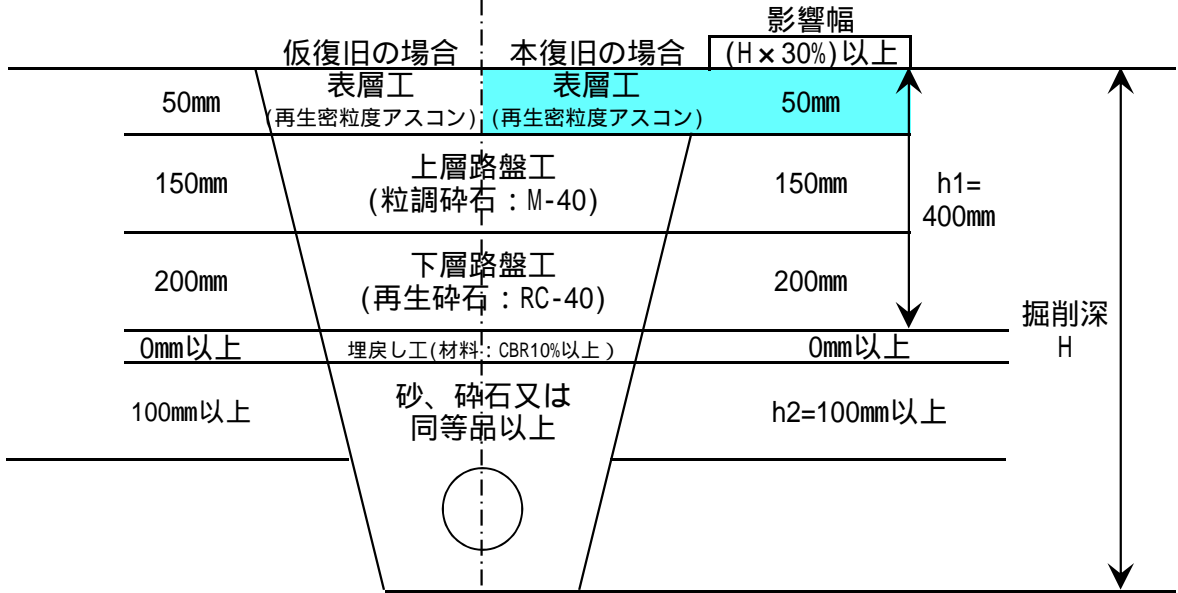
別記 1 路面復旧工事標準断面図

【車道】

(1) アスファルト舗装

本復旧部分

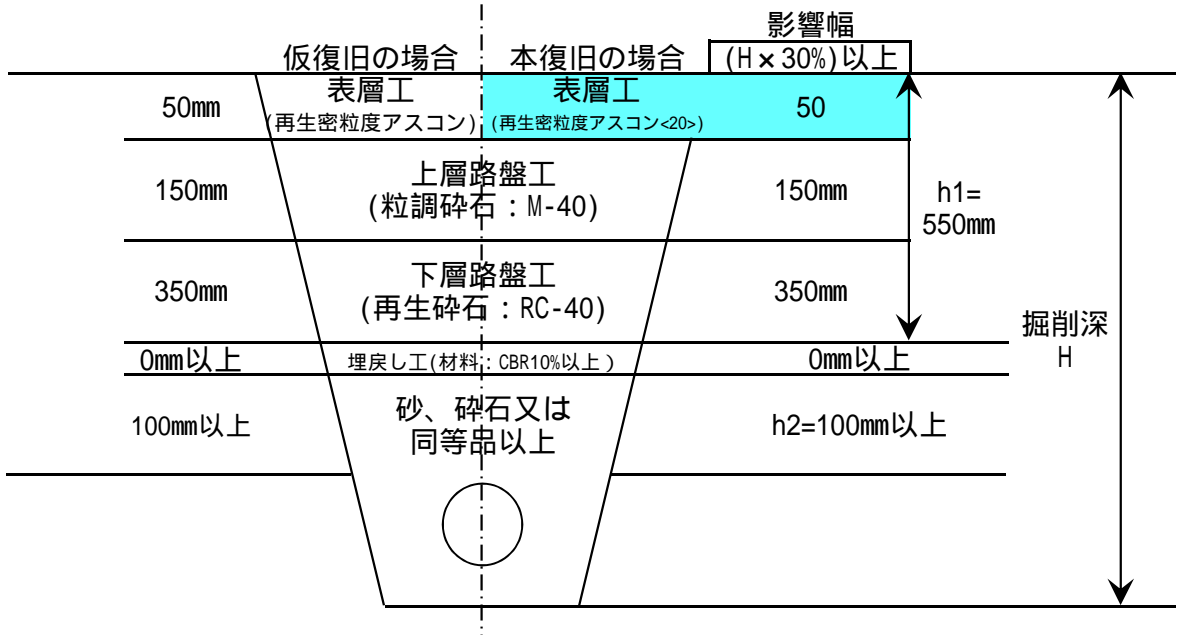
L 交通 (大型自動車100台未満/日・一方向)



本復旧の場合、表層工に使用する再生密粒度アスコンについては、現況道路の利用状況などを考慮し、<13>もしくは<20>を決定すること。

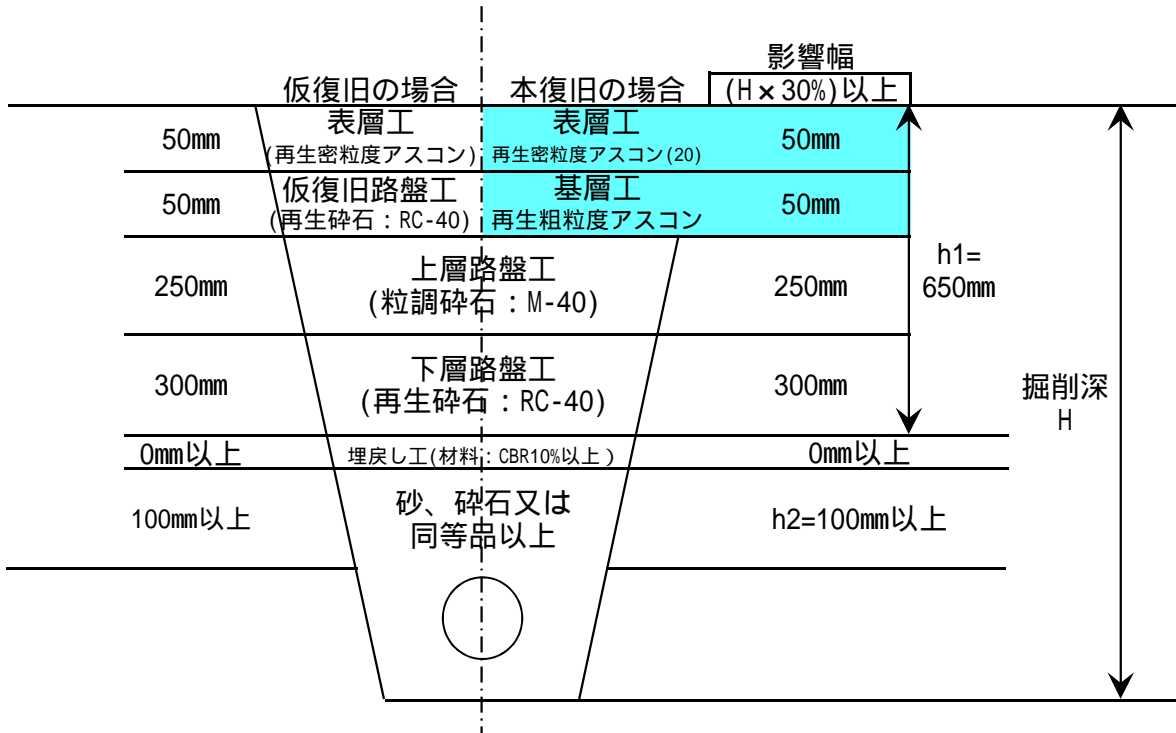
本復旧部分

A 交通 (大型自動車100から250台未満/日・一方向)



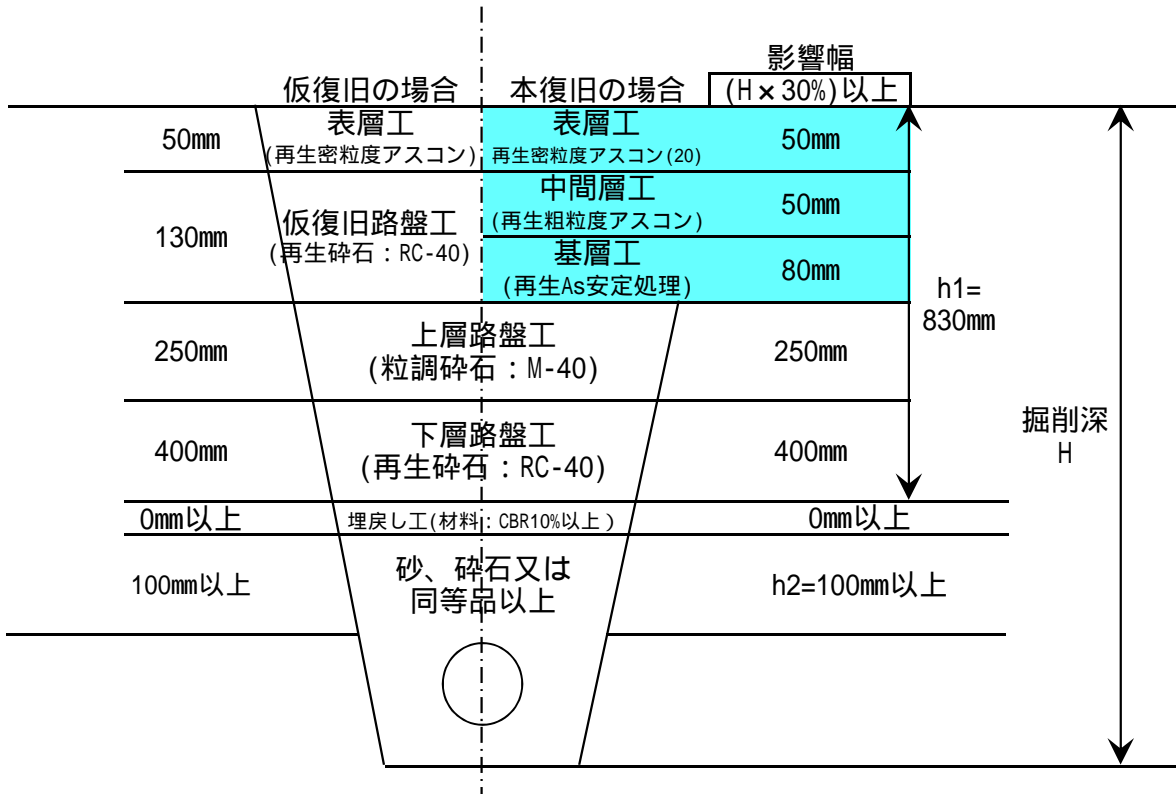
■ 本復旧部分

B 交通 (大型自動車250から1000台未満/日・一方向)



■ 本復旧部分

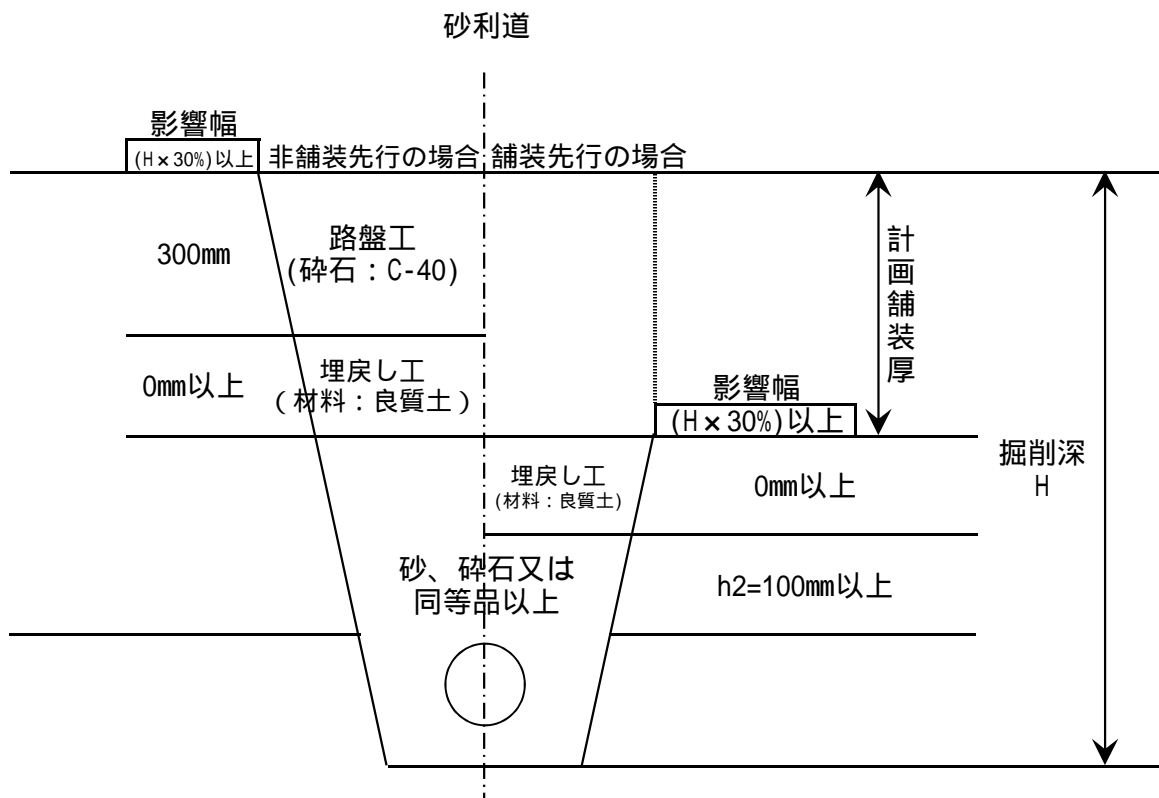
C 交通 (大型自動車1000から3000台未満/日・一方向)



(2) コンクリート舗装

復旧は道路管理者と事前協議すること。

(3) 砂利道



【歩 道】

(1) アスファルト舗装

ア) 一般部

表層工 (再生細粒度アスコン)	40mm	← プライムコート
路盤工 (C-30)	100mm	

イ) 乗入部

表層工 (再生密粒度アスコン)	種	種	種	← タックコート ← タックコート ← プライムコート
中間層工 (再生粗粒度アスコン)	50mm	50mm	50mm	
基層工 (再生粗粒度アスコン)			50mm	
路盤工 (RC-40)	250mm	250mm	300mm	

種 : 乗用自動車、小型貨物自動車等

種 : 普通貨物自動車等

種 : 大型及び中型貨物自動車等

(2) コンクリート舗装

ア) 一般部

コンクリート工	70mm
路盤工 (C-30)	100mm

1) コンクリートの強度は $18\text{N}/\text{mm}^2$ を基準とする。

2) 目地間隔は5.0mを基準とする。

イ) 乗入部

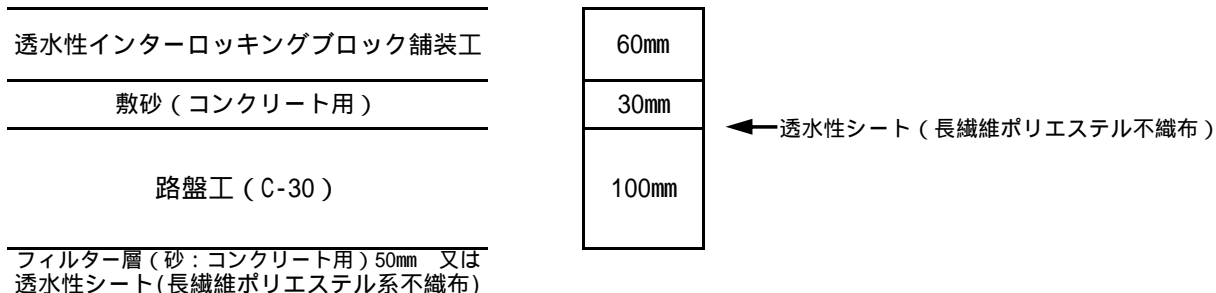
コンクリート工	種	種	種
路盤工 (C-30又はRC-40)	150mm	200mm	250mm
	100mm	200mm	250mm

1) 種の場合、路盤工はC-30とする。

2) コンクリートの強度は $_{28}=21\text{N}/\text{mm}^2$ を基準とする。

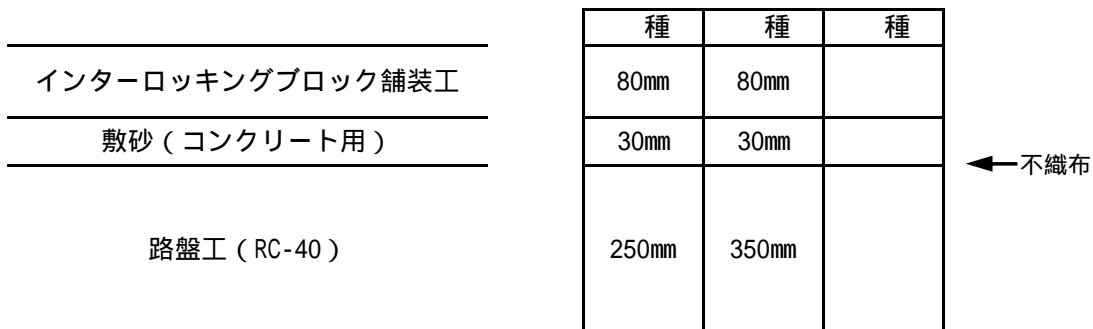
(3) 透水性インターロッキングブロック舗装

ア) 一般部



- 1) 路盤下のフィルター層又は透水性シートについては現況材料に合わせる事。
- 2) 現況が透水性ブロックでない場合はフィルター層又は透水性シートは不要。

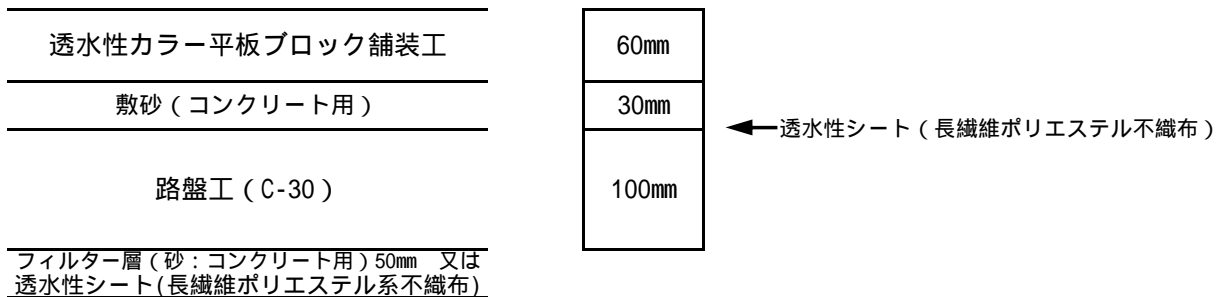
イ) 乗入部



- 1) 乗入部には透水性ブロックは使用しないこと。

(4) カラー平板ブロック舗装

ア) 一般部



- 1) 路盤下のフィルター層又は透水性シートについては現況材料に合わせる事。
- 2) 現況が透水性ブロックでない場合はフィルター層又は透水性シートは不要。

イ) 乗入部

カラー平板ブロック舗装工
敷砂(コンクリート用)
路盤工(RC-40)

種	種	種
80mm	80mm	
30mm	30mm	
250mm	350mm	

←不織布

1) 乗入部には透水性ブロックは使用しないこと。

(5) 透水性アスファルト舗装

ア) 一般部

透水性アスコン
路盤工(C-30)
フィルター層(砂:コンクリート用)50mm 又は 透水性シート(長繊維ポリエステルP-P系不織布)

40mm
100mm

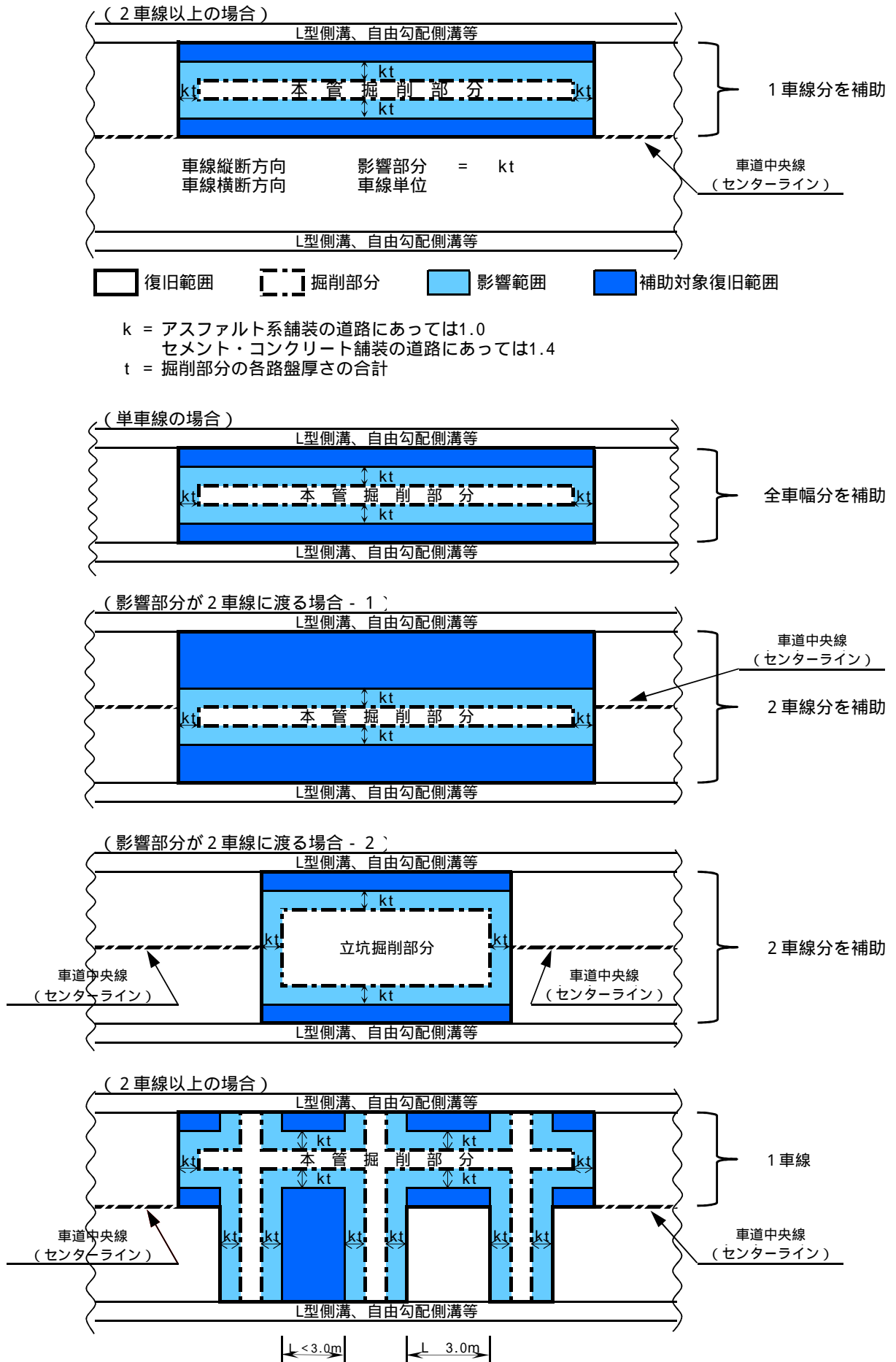
イ) 乗入部

乗入部には施工しないこと

別記2 影響査定基準図

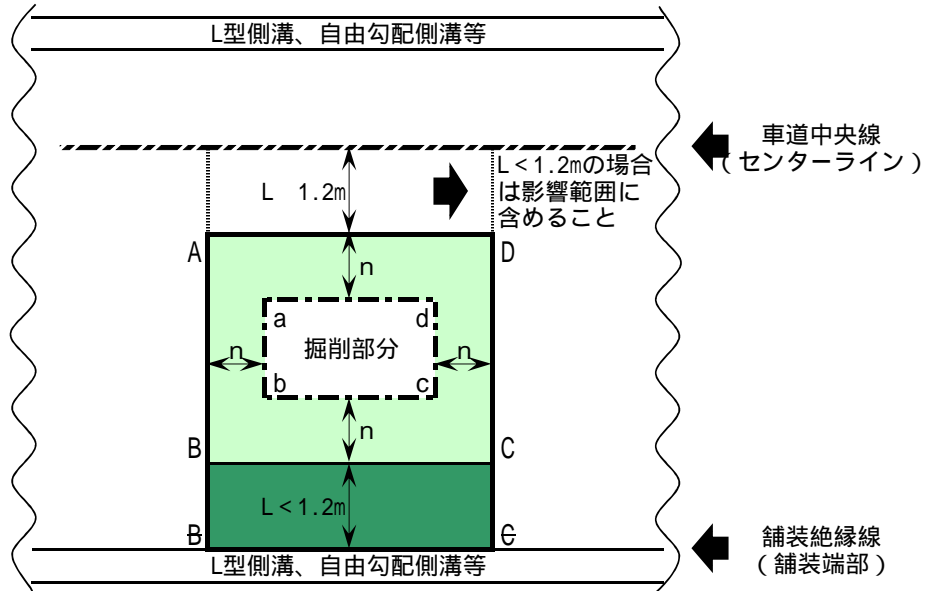
補助事業用

車道(アスファルト舗装)



単独事業用

車道（アスファルト舗装 - 縦断）



n : 掘削深の30%以上

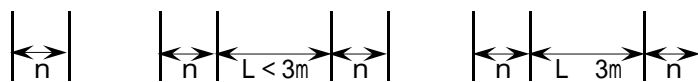
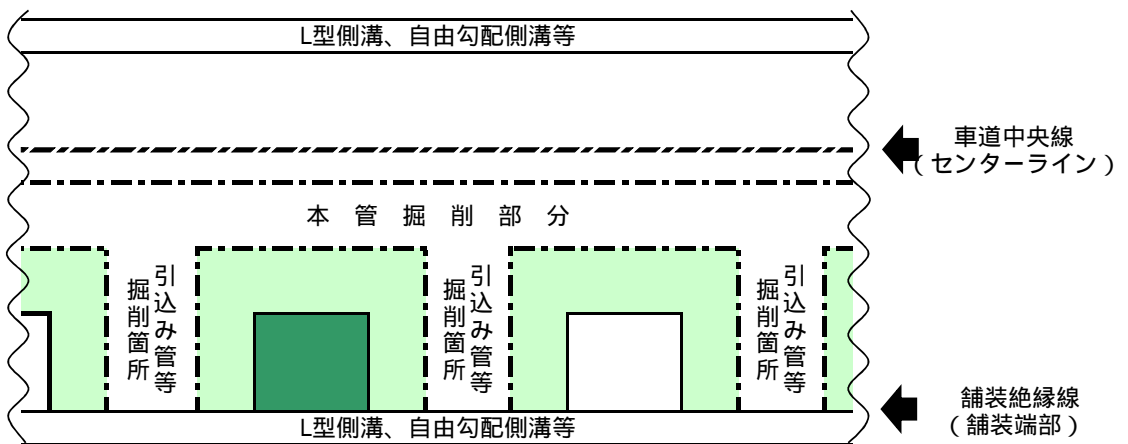
復旧範囲 = A-B-C-D
 掘削部分 = a-b-c-d

影響範囲 = A-B-C-D
 a-b-c-d

影響範囲の端から舗装絶縁線までの距離が1.2m未満の場合は影響範囲に含めること

A-D (B-C) 30mの場合はA-B (C-D) 2.3mとすること。
 センターラインの表示のない道路の場合は、アスファルト舗装幅員の中央を車道中央線の位置とみなす

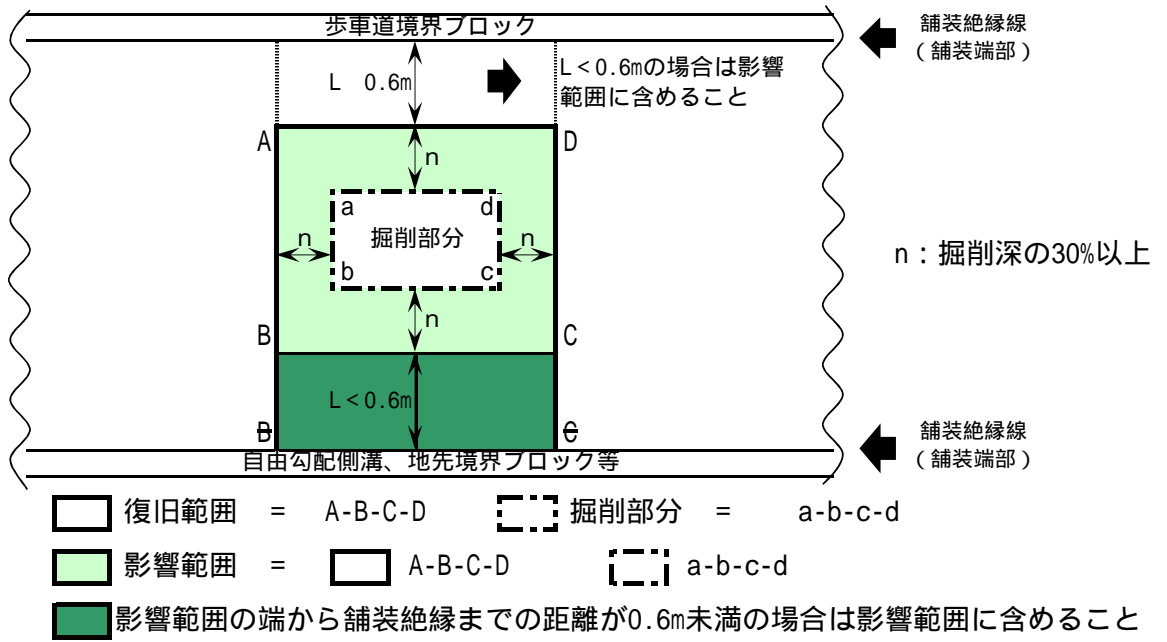
車道（アスファルト舗装 - 横断）



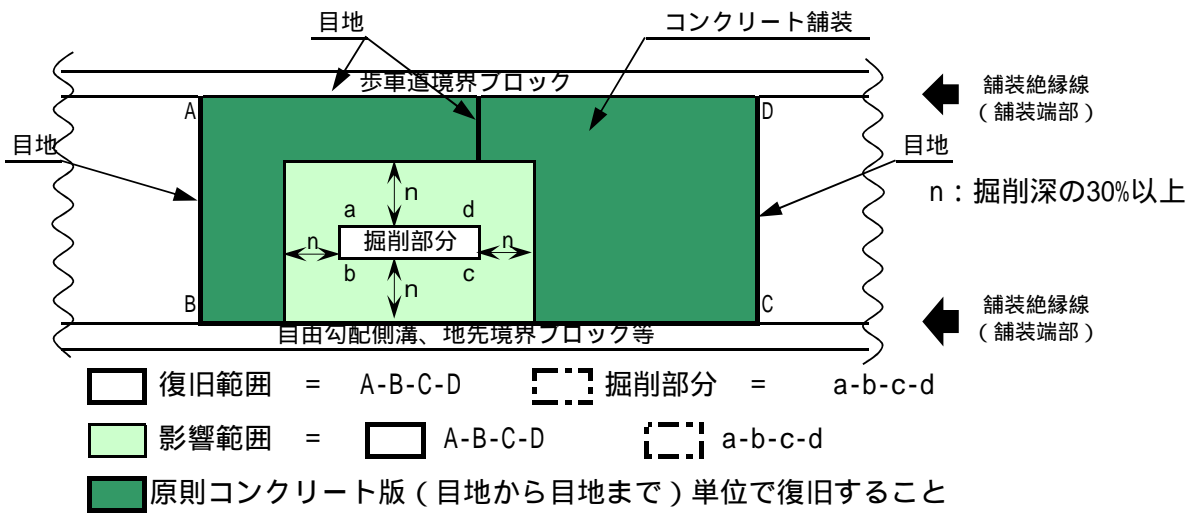
n : 掘削深の30%以上 影響範囲

L < 3mの場合は を含めて本復旧を行うこと

歩道（アスファルト舗装）



歩道（コンクリート舗装）



歩道（コンクリートブロック舗装）

